

だい きやまと し たぶん かきょうせいかいぎ だい かいかい きろく ようやく
第3期大和市多文化共生会議 第10回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち ど
日時: 2013年12月14日(土)14:00~16:00

ばしよ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいかい きしつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅつせき いん いとうひろ こ いとうもとみ いなふく おかざき こん の まさる みやじま
出席: 委員(伊藤裕子、伊藤素美、稲福スーザン、岡崎チャーメイン、紺野勝、宮嶋
こうじ やまだ ちよん あ やまと し こくさい だんじよきようどうさんかく か はら だ かずのり こうえきざいだん
耕治、山田 静 娥) / 大和市国際・男女共同参画課(原田和徳) / 公益財団
ほうじんやまと し こくさい かきょうかい たなかひろ こ こにし えり こ いしかわかずとも いじょう めい
法人大和市国際化協会(田中弘子、小西永里子、石川和友) 以上11名

けっせき いん あらいまさのり いしま きくち けんいち こばやし
欠席: 委員(新井政則、石間フロルデリサ、菊池健一、小林 ホルヘ、ファン チ
イ フォン)(敬称略)

ぜんかいおこな ほうこく
1 前回行ったフィールドワークの報告

はな あ さいがいじ がいこくじん し えん
2 これまで話し合ってきた災害時の外国人支援

おかざき いん はな あ さいがいじ がいこくじん し えん
岡崎委員からこれまで話し合ってきた災害時の外国人支援についてまとめてもらった。

ほうじんざいにち いけんこうかんおよ しつ ぎ おうとう
3 NPO法人在日カンボジアコミュニティとの意見交換及び質疑応答

ざいにち さわいりつし い さ し さいがい かん げん
在日カンボジアコミュニティのメンバー(沢井律氏、伊佐リスレン氏)に災害に関する現
じょう
状についてうかがった。

さいがいじ
①災害時のこと

だんたい かんが
◎団体で考えていることはありますか？

かんぶ はな あ やまと し じん おお す
○幹部で話し合ったことはある。大和市でいえば、カンボジア人が多く住んでいるいちよう
だんちない ほうそう に ひと
団地内に放送(スピーカー)がほしい。どこに逃げたらよいかわからない人がいるので、
たと だんちない じん なか
例えば、いちよう団地内にカンボジア人の中でリーダーをおきたい。リーダーをおいたと
して、そのあと、どうまわりと連絡を取り合っていくのか、まだ決めていない。

ゆうじん かぞく れんらく まった けいけん でん き
○3.11 のときには、友人や家族との連絡が全くとれなかった。その経験から、電気がな
くても情報がとれる無線放送は重要だと思う。外国人に対して、上手に情報提供がで
じょうほう むせんほうそう じゅうよう おも がいこくじん たい じょうず じょうほうていきょう
きるように災害多言語支援センターを実現してほしい。

じちかい ちいき ひと さいがいじ こうどう かんが
◎自治会など地域の人たちと災害時に行動することは考えられますか？

わたし ばあい じちかい かつどう さんか せいそう じぎょう おこな
○私の場合、いつも自治会の活動に参加していて、清掃事業などを行っている。カン
ボジア人が多く住んでいるいちよう団地の住人のうち、半数くらいは逃げる場所がわか

らない。わからない人は班長(自治会長)についていくしかない。班長を知らなければ、家の中にいると言っている人が多い。3.11 のときには、一番安全だからという理由で田んぼの真ん中に避難した人がいたようだ。普段は門が閉まっている学校には入れないというイメージがあるので、避難場所が学校であることを知らない。

○また、カンボジア本国で地震を経験したことがないため、避難用の緊急バッグを用意しているカンボジア人はほとんどいない。おそらく、70%ぐらいの人は何も準備していない。3.11 のときは藤沢の会社にいたが、ものすごく怖かった。藤沢市から放送等の情報提供は30分以上なかったもので、どういう状況なのかよくわからなかった。

○家にいれば自治会と一緒に行動すると思う。地震が来たとき、日本人の場合、机の下にもぐるなどの行動が自然にとれると思うが、カンボジア人はそういった対処法を知らない。日本人は小さいころから訓練していることもあって体で覚えている。日本人をみてそれにならうのがベストだろうと思う。

②連絡をとりあうこと

○普段、どのように連絡をとりあっていますか？スカイプやラインなど、インターネットを使った無料通話サービスを利用していますか？

○最近ではLINE(ライン)をよく使うが、一番使うのはEメールか電話。NPOの内部ではメールで連絡をとりあっている。そのほかには、スカイプ、フェイスブックなど。ただし、フェイスブックはあくまで個人的に利用していて、団体として利用しているわけではない。

(補足)

○NPOの会議の回数はあまりない。イベントは4月のお正月、10月のお盆などがあるので、そういったときなど、一年に3回ほどは互いに会っている。日本人のように居酒屋にいたりしないので、そういった集まりのときにみなで踊ったり、ごちそうを食べたりして楽しむ。日本に住むカンボジア人はそのほとんどが神奈川県に住んでいる。

○災害の時の連絡手段をあらかじめ決めていきますか？

○まだ決めていないのでこれから作っていきたい。

○まだ準備していないが、連絡先のリストは作成している。個人ではなく、家族単位で関わっているので正確な数字ではないが、NPOのメンバーは53名くらい。実際に活動しているのは10名くらい。催しがあるときは、チラシ、手紙、メール、SNSなどいろいろな手段を使って、県内のカンボジア人に広く周知している。イベント告知のちらしは500枚ほど用意している。

○対象となるカンボジア人は県内だけで、1,500人以上いるが、NPOとして会費を払ってまで参加していこうと思っている人はそんなに多くない。

③避難訓練について

◎災害の時の避難所を知っていますか？

○大和市内のすべての避難所について把握しているわけではないが、自分の地域の避難所は知っている。

○3.11の前は、どこに避難所があるのかわからなかった。3.11以降、学校の体育館など避難所の場所を知った。カンボジア人はあまり参加していなかったが、以前国際化協会が主催したいちょう団地の防災訓練に参加したことがある。

◎災害の時に困った事を相談する時、誰を思い浮かべますか？

○自宅近くに自治会の班長(会長)が住んでいて、以前から交流もあるので困ったときには相談すると思う。

○一番早く支援を求められるのは周りにいる友人。情報にしても、水やガソリンにしても、相談できる友人がいる。

○どうしても周りで対処できなかつたら、市役所に相談すると思う。もし、この災害多言語支援センターができるのであれば、それがベストと思う。

◎外国人専用の避難所があれば、利用しますか？

○みんな喜んで利用すると思う。ただし、連絡を取り合える地域の日本人数名も必要。「日本人とは習慣(文化)が違う」「言葉もわからない」そのため、皆のいる避難所の中で自分たちのスペースがある方が混乱しないのでいいと思う。日本人に迷惑をかけるのでは、という心配もある。

○別々の避難所であれば差別されてしまうのではという心配はあるが、あった方がいいと思う。日本語があまりできない人にとって大変助かる。外国人は嫌だという日本人もいるだろうし、自分たちもあまり迷惑をかけたくないという思いがある。お互いに理解しあえる状況がベストであると思う。

○カンボジア人の中でも、呼び寄せで最近来日した人などは日本語があまりできない。そうした外国人のための避難所はあってもいいと思う。

○日本人は忙しいから仕方ないのだが、日本人は冷たいと思っている人もいる。例えば、電車の乗り方を教えてほしいだけなのに、警察に案内された人がいる。「なんで電車に

の 乗りたいだけなのに警察に行かなくてはいけないのか」という不満を持つ人もいます。そういう人には「行き先を調べてから出かけた方がいいのでは」とアドバイスするが、やはり人それぞれ違う考えを持っている。

- それから誰に従っていいのかわからない場合がある。だから、日本人のリーダーをはっきり決めてほしい。私個人は、外国人の一人としてリーダーシップを発揮したいと思っている。日本語が分かるのに、日本人と一緒にいると他の外国人を助けられないのもつたいない。日本の習慣も理解しているので、ボランティアとしてカンボジア人を含め、外国人にいろいろと伝えたいという気持ちがある。

◎災害ボランティア登録があったら、ボランティア登録はできますか？

- 個人としての登録であれば協力する。

④そのほか

◎来日して間もない人はいますか？そのような人が日本に来て困っていることはどのようなことでしょうか？

- よく相談を受けている。やはり、日本語がわからないという相談が多い。相談者は、同じ言語を話す人や母国語の情報を必要としている。友人を紹介する場合もある。相談内容は、仕事や日本語学習に関するものがほとんど。そのほか、ビザ更新など。
- 平塚市の事例だが、ここ一年間、結婚など呼び寄せで来日したカンボジア人は8名くらいいる。駅まで遠いのでバスに乗ろうにも乗り方がよくわからないので、外出するときに困っている。

◎災害が起きたときに、行政から出される情報はどのような方法で提供してほしいですか？

- スピーカーでアナウンスしてほしい。電話や Email がつながらない状況でもスピーカーであれば情報を得ることができる。
- 時間が経って少し落ち着いてきたら、Email か電話がいい。普段使っている LINE や facebook でもあるとなおいい。紙でもいいが時間がかかる。ただし、紙での情報がないと不安なこともある。手書きの文書だとしてもアナログな情報提供もあるといい。

◎災害多言語支援センターには、どのようなことをしてほしいですか？

- 情報提供が第一。そのほか、防災訓練に参加したいと思っている。多言語支援セ

ンターがあるという想定で訓練があるといい。

- 食糧などの備蓄をしておいてほしい。(ただし、実際は多言語支援センターで物資を準備することはできない。自主防災会がそれぞれコンテナに備蓄している。)

◎現在、グループが抱えている一番の問題は何ですか？

(協力者について)

- 一番困っていることといえば、協力してくれる人が少ないということ。
- 日本人の支援がなくても活動できるような体制にしていきたい。中心メンバーが 50代で普段の仕事で忙しいこともあり、活動に専念できない。若い人たちが NPO の運営に関与して欲しい。

(言葉について)

- カンボジア出身の人はカンボジア語ができて、日本語が苦手な場合が多い。一方、日本生まれの二世は、日本語はできるのだが、カンボジア語が弱い。二世のカンボジア語のレベルは、文字を読むことはできないが、会話はできるくらいのレベル。例えば、家族の間でカンボジア語で話しかけても日本語で返答がある。翻訳するのも厳しいし、きちんとした通訳ができる人も少ない。
- 自分の子どもの場合、日本人と全く同じ考え方をするので、カンボジアの考えを理解させるのは難しい。50:50 ではなく、日本80、カンボジア 20 くらいのイメージ。また、親子の関係だからこそ、難しいのかもしれない。おそらく、他人から伝えた方がいいのだろう。
- 最近では、翻訳と通訳の両方できる人を想定していない。書く(翻訳)ことができなくても、話す(通訳)だけでボランティアできる人がいることに気が付いた。
- そうした言葉(カンボジア語と日本語)の問題があり、なかなか後輩が育たない。

(資金面について)

- それから、ボランティアで活動してくれる人がいないことも問題になっている。お金を払ってくれれば協力すると言ってくれる人もいる。NPO は設立間もないのだが、まだ収入が入る形にはなっていない。
- NPO に入ったらどのようなメリットがあるのか、NPO 自体の魅力を若い人たちに理解してもらわないといけない。今はイベントをやるたびに赤字になっている。その点もメンバーが増えない原因の一つかもしれない。活動に参加することの意義をメンバーに見出してもらいたい。

(相談への対応)

- カンボジア人が困ったことがあった時に相談したい人(弁護士やコンサルタント)がい
ない。その場合、かながわ難民定住援助協会に対応してもらおう。今のところ、NPO自身
が問題を解決できるようにはなっていない。
- 弁護士が必要な相談として、①交通事故、②婚姻関係(離婚など)、③ビザや労災な
どが挙げられる。
- 対応としては、法テラスを紹介し、その後、住んでいる市町村の役所で法律相談の予
約をする。
- ビザについて、NPO関係の約50名のうち、帰化している人が半分くらい、そのほかは永
住者ビザがほとんど。ただし、永住者ビザの人は無国籍になっている。それは、インド
シナ難民として日本に入国しているため、パスポートを持っていないから。

◎そのほか

- 委員(ベトナム):ゲストの二人は外国人専用の避難所を利用すると回答したが、果た
して子どもたちは利用するだろうか。
- ゲスト2:学校や職場にいるときは別だが、基本的に、子どもは親と一緒に避難すると
思う。
- 委員(ベトナム):15歳にもなると反抗期で親に従わないのではないだろうか。
- ゲスト1:私が想定していたのは、避難所となっている体育館の一部のスペースを外
国人が使うというもの。単に日本人に迷惑をかけたくないという気持ちがある。
- 委員(ペルー):他に、特別教室など特定のスペースに配置することも考えられる。
- 委員(日本):日本人に迷惑をかけたくない気持ちと、自分たちでいた方が安心だとい
う気持ちのどちらか。
- ゲスト1:両方ある。海外で日本人同士が集まったりすることと同じかもしれない。
- 委員(ベトナム):つまり、避難所の中でも、外国人が集まっている方がいいということだ
と思う。
- 委員(日本):HUG ゲームを経験したことで、日本人の中でも病気の人や車いすの人
がいるので、いろいろな配慮をした方がいいということが分かった。
- 大和市:避難所を開設するときには、体育館のどのスペースにどんな人を配置するか
は、日本人や外国人問わず、考えなくてはいけない。赤ちゃんを抱えた人、車いすの
人、年齢や家族構成など配慮すべき項目の一つに違う言語、違う文化を持った人
たちをどうするか、という視点も加えるべきということだと思う。

いじょう
以上